七日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ケ月 金六十錢
□郵税 金十五錢
□一部賣 金三錢
□廣告料一行 金六十錢
□雜報消 金九十錢
□場所指定一行 金一圓増
□電話（平）七八六番
□振替口座東京一〇八・五八五
福島縣平市田町十六番地
發行所 磐城毎日新聞社
發行編輯印刷人 森合英

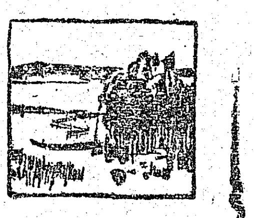
閑如生庵

揚繰漁業の弛緩を戒む

小名濱 導師

時の寵兒揚繰漁業も最近企業統制の高壓の爲めか、春職と成つて八日の今日出漁船は遲々として捗取らず數統の出漁船が漸く、とこ一、二日エンジンの響を立てる狀態で、好漁期の今日物淋しきを一般に感知させてゐる。

これには燃料の不足漁網の入手困難等が理由とされてゐるが、過般來の機業統制問題が業者として從來の如く張込めぬ一原因と見る事も出來る正月早々から一生懸命やつてもどうせ……と云うた心の弛緩を出してゐる事は見逃す事が出來ない、乘込漁夫が正月で銘々郷里に歸つた、從來なれば早歸りを矢のやうな催促であるが、あの焦燥に近き事業慾は緊張を意味したものである緊張は積極的であり弛緩は消極的となる、その心構へに正比例して漁獲物の上に大きな差のある。事は門外漢より見ても察知する事が出來る今や國家のスローガンとして職域奉公、公益優先が相言葉となつてゐる、私の利益を考へる前に職域奉公を深く考察すべきである、揚繰漁業の場合なども燃料の盡きる迄漁具の使用出來る限り大に緊張し取越苦勞で疲勞を感じ、國家の大事な生産力に弛緩を來さぬやう總てを善意に勇氣を鼓舞するやう、敢て一言を呈するものである。



文藝

翻つて考へるに、自分の胸の中にある事をぶちまけるといふ事が文學の初歩であり同時に窮極である　（上林 曉）

「陰翳禮讚」を讀みて（六）

城木伊佐夫

漆器の椀のいいことは、先づ蓋を取つて口に持つて行く迄の間、暗い奧深い方に、容器の色と殆んど違はない液体が音もなく澱んでゐるのを眺めた瞬間の氣持ちである。人は、その椀の中の闇に何があるかを見分けることは出來ないが、汁がゆるやかに動搖するのを手の上で感じ、椀の緣がほんのり汗を搔いてゐるので、そこから湯氣が昇りつゝあることを知りその湯氣が運ぶ匂ひに依つて口にふくむ前にぼんやり味はひを豫覺するその瞬間の心持ち、スープを淺い白ちやけた皿に出す西洋流に比べて何と云ふ相違か、それは一種の神祕であり、禪味であるとも云へなくはない。」

正に谷崎氏のすぐれた、洗練された趣味から來る卓見で唯感嘆の外はない、私などもこのことから漆器の椀に注意して眼を注ぐやうになつた、何かの會合が料亭などで催される時、私は日暮時の方を好む、見るからにおぼつかなげな外光が、黃昏色の壁の面に取りついて辛くも餘命を保つてゐる。あの纖細な明るさを樂む。吸ひ物椀を前にして、成程椀が微かに耳の奥へ泌み込むやうにジイと鳴つてゐる。あの遠い虫の音のやうな音を聽きつゝ此れから食べる物の味はひに思ひをひそめる時、『いつも自分が三昧境に惹き入れられるのを覺える。』と云つた氏の心境も成程と頷けるのである。味噌汁なども、あのどろ〳〵の赤土色をした汁が覺束ない蠟燭のあかりの下で黑うるしの椀に澱んでゐるのを見ると、實に深みのあるうまさうな色であるが、百燭光の下で、ガラスか、磨いた銀の器にでも盛られたら美味と感じないばかりでなく、寧ろ穢しくさへ感じはしないだらうかと思ふのである。

短歌

春光（下）

新妻久滿夫

おほらかに圓を描きて春の日のきらへる眞上鳶遊びをり

春光に一つの影を描きつゝ空の高どを鳶舞ひ遊ぶ

なだらかに眞上低く舞ふ鳶のぴいろぴいろと鳴くまひるなり

旋廻する飛行機のごと低く翔ぶ鳶のたもてる翼のたしかさ

滑らかに春の光に舞ひ翔る一つの鳶のもてる靜けさ

めづらしく低きを翔る鳶かげにまなこ放たず愛しがりけり

旅

（四倉）紫 涙

乳のみ子の乳を戀ふるか聲のして旅の夜汽車は吾子の偲ばゆ

連續講談〔119〕

異說赤穗浪士

桃川若燕

畵 城木 喬

同志江戸へ

大石主税は、間瀨久太夫、大石左衞門、茅野和助、小野寺幸右衞門に伴れられて父に先立つて九月十九日に京都を發し同じ月の二十四日江戸に着した、これは何故かと云ふに江戸在住の急進派を統制に服せしむると共に士氣を振ひ立たせる爲めに先發したもの、此の四人は若黨の加瀨幸七を伴ひ都合五人で日本橋本石町の小山屋彌兵衞といふ旅籠の離れを借り受け玆に落付いた、十月十七日には原惣右衞門、岡島八十右衞門、貝賀彌左衞門、間喜兵の四人が江戸へ着す、續いて同月十九日には小野寺十内が密々の内に江戸へ下つて內藏之助の旅宿の支度をする、江戸に居た連中は堀部彌兵衞同じく安兵衞、奧田彌太夫同じく貞右衞門、村松喜兵衞、同じく三太夫、片岡源五右衞門、磯貝十郎左衞門、富[illegible]右衞門、潮田又之丞、赤垣源藏、又神崎與五郎も一二度上方に歸つたが、九月の末からは江戸へ止つて吉良家の樣子を覗つて居る、また吉田忠左衞門は寺坂吉右衞門を伴れてこれも江戸へ下向、堀部彌兵衞金丸と共に長老として大石と聯絡を取つた、斯く一味の同志が江戸に集まつたので大石も京地を愈々出發する事となつたが丁度出發の一日前の六日此事を聞いて尋ねて來たのが二文字屋次郎右衞門の娘お輕、このお輕が芝居では勘平の女房で後に身を賣つて由良さんに身受けされることになつて兄の平左衞門に殺されるといふ例の七段目だが、事實は大石の妾で遊女ではなく二文字屋の愛娘當年取つて十八歲、色の白い實に美人だつた、お輕が大石の妾になつたのは不圖した事からで、當時の大石は猿橋右門其他の間者が身近く覗つてゐるのでこれを欺く爲め日々に廓通ひをしてゐる最中故往きに歸りにこの二文字屋の前を通ると或る日の事、二文字屋の丁稚長吉が朝早く起きて店の戸を開け門口を掃除してゐると思ひもよらぬ脇差が落ちてゐる、長吉はこれを拾ひ、

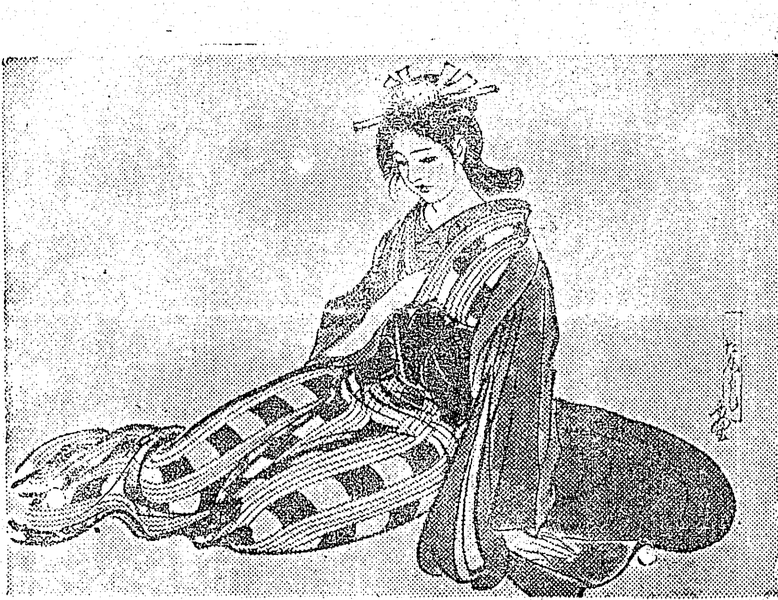
『オヤ〳〵脇差を落して行つた侍がある、隨分間拔けな奴もあつたものだ』

と惡口を云ひ乍ら玩弄にしてゐると其處へ來たのは娘のお輕、

『コレ長吉や、お前何をしてゐるの』

『ヘエ』

『オヤお前の手に持つてゐるのは何んだい』



『ヘエ脇差で……今門口を掃除をしようと思つたら落ちてゐたので拾つたのです』

『お見せ……』

とお輕が脇差を取つてよく見ると見覺えがある、

『この脇差には見覺えがあるこれは每夜玆の表をお酒に醉つて步いて通るお侍の持物らしい……』

『どうしてお孃さんはその脇差を見覺えてお出でなさいます』

『アノネこの脇差は先日お侍が朝早く正体もなく醉つて通りながら石に爪突いて轉びさうになつた時落して知らずに行きなさつたから妾が拾つて差させて上げたからそれで見覺えがあるのだよ』

『ヘエ然うでございますか、お孃樣は余つ程その脇差に緣がありますね』

『それ御覽、鍔の際にこの丸くした金物に二つ巴の紋がつけてあるから』

『或る程然うでございますね

と丁稚の長吉面白半分、脇差の鞘を拔き放ち、

『オヤ〳〵眞赤に錆てゐる、これぢやア竹光の方が余つ程氣が利いてゐらア』

おでんとヤキトリ
田町末廣トナリ
一柳

おでん
茶めし
平市新田町
電話三三番

三宅駿一博士發明（醉田肝油）
專賣特許
美味しいビタミンのゼリー
ピ
ハマーチ
五十錠入 一、一〇
百錠入 二、〇〇
德用罐 五、〇〇
特約店 平市五丁目
山野邊藥局

トンカツ
とんかつ專門の店
平市仲田町
かの家
電話四六五番
出前は迅速におつとめ致します

りん病 こしけ 專門藥
岩里 別府淋藥 一週間分 參圓（黑） 五圓（赤）
岩里 別府散 痛みある病、熱ある病 七包入 五十錢 十九包入 壹圓
製藥本舖 別府市 岩里天然堂
代理店 平市古鍛冶町一〇
阿康藥局
電話四四番
振替東京三〇〇五六番

▲男女車掌募集
平市四丁目
鈴木自動車部
電話二二七番

國民服と軍服
高島屋の洋服
御注文並に既製品
平市二丁目通 電話三六八番

肉の御用命は
三二三屋
牛も豚も優良品の自慢

防空暗幕
天幕・シート 防水マント カーテン、敷物、防水加工 製作販賣
●設計と施工●
敷島屋商店
平市六丁目六
電呼四八三番

味の司
トンかつ料理
一の井
平三田小路
電一六七

度量衡
モノサシ・升・秤
計量器
體溫器・寒暖計
ハカリの取締垂系を修繕致します
吸入用酸素純度99%
關内藥局
平四丁目 電話四〇番

大小の御宴會にホール
御家族の御同伴に御座敷
いつも材料を吟味して居ります
平市四丁目
マルトモ食堂
（電話一二三番）

能働
能眠
能便
能食
ミクローゼ

ミクローゼ
1家に1個常備の
胃腸・強生ピルツ剤
クスリはホシ

健康を生産する

ミクローゼは、酵母以上に生存力が强靱で、消化酵素を多量に産生する日本固有のピルツ（有効菌）と、アミノ酸・ビタミンを始め各種榮養素とを豐富に含む胃腸强生劑であります。故に、食慾を旺盛にし、正確・自然な便通をもたらし、榮養の吸收、附加を助け、逞しい健康を生産するのであります。

醫學博士・豐島豐次郎先生創製
一ヶ月分・三六〇錠 一圓五〇錢

特に、左記症狀の方々に好適
各種胃腸疾患
食慾不振
常習便秘
結核諸症
脚氣諸症
腎臟炎
姙婦榮養補强

東京・五反田
星製藥株式會社

全國有名藥店にあり

燃料國策の線に沿ふ
黒ダイヤ増産
強調期間後炭田にどう響く

燃料國策の線に沿うて一路黒ダイヤ増産へ逞しいツルハシを響かせてゐる炭礦地に、強調期間滿了後どうして減産を防ぐか？奬勵方法を如何にして持續するか？常磐炭田擧げて注目され、強調期間のゴールを目ざし眞しぐらにピツチを擧げてゐる

あらゆる重要産業の動力となる黒ダイヤの増産を目ざして政府は増産期間に特例を設け「大臣賞、臨時手當、特賞」等々鳴物入りで増産を奬勵・過般大日本産業報國會總務局長君島前知事、厚生省監督課長等を常磐炭田慰問と指導に現地へ派遣、引續き「浪曲、萬歳、歌謠曲」の慰問隊を昨報の如く常磐炭礦の隅々まで慰問行脚させるなど至らざるなく、爲に今冬の出炭率は前年に比較し一割五分乃至二割の増産があり各山元も凱歌を奏し三月末日の「増産強調期間」ゴールを目標に逞しいツルハシを響かせてゐる

然し三月末日で増産期間を終了すれば奬勵方法も當然改められ、從つて勢ひづいた増産運動も急激に下降する怖れあるため如何にしてこの減産を喰ひ止めるか重要問題として取上げられ厚生省、商工省、産業報國會業界等各方面で對策に腐心してゐる

強調期間中の入坑者に對する督勵方法は各炭礦共多少相違あるが大体に於て

◇有付手當＝他の職業に移らず踏み留つてゐる工夫に與へる一種の移動防止手當で月額十圓以内

◇出動奬勵金＝一ケ月廿三日以上入坑した者に支給される手當月額十圓以内

◇採炭奬勵金＝採炭一トンにつき十錢の割で與へる

の三種類に成つて居り勞働局は「増産期間中臨時的なもので期間後は支給を停止すべきもの」と解釋し一方増産を目標とする産報、山元等は『危險を冒し地底深く入坑陽の目も見ない特殊的業務であるから扱ひを別にすべきである』と主張、賃銀統制令を楯にして他の軍需工業に影響を及ぼしては重大問題となるため當局も愼重に研究を續けてゐる

大臣賞目ざして素晴しい成績
山元は期間後に對處

別項、石炭の増産強調期間後奬勵の諸手當てが廢止さるれば必然的に減産を免れないものと見られ、山元は何れも當局の態度を刮目してゐるが右について磐城炭礦の某幹部は語る

強調期間後どう定まるか、まだ相當時日もあり今どうから批判することは出來ない、賃金統制令の關係もある爲當局もそのまゝ奬勵金を持續することに異論あることでせうが、人的資源の不足な場合であり何等か特別の待遇を講ぜないと地底で働かせることは困難です先づ問題になるのは季節勞働者を如何にして喰ひ止め　そして缺員を如何にして補充するかです、目下の處は大臣賞を目標に素晴らしい成績を擧げてゐます

轉失業者を指導する
平補導所開講
應募超過し銓衡に惱む

時局關係から轉業の必要に迫られた中小商工業者のため二月朔日から開く豫定であつた平職業指導所轉失業者職業補導講習は本省の指令關係から開場を延期して居つたが來る十四日午後平陽女學校内に開場式を擧げ十五日より機械製圖講習をすることに成つた

講師は縣立平工業學校三教諭が壇上に起ち五月末までの講習を續ける、第一回受講者は定員の二十五名で現在開場を前に希望者多く轉業の必要性順から選ぶべく調査中である

愛婦で表彰の健氣な遺兒
平市も調査進める

主婦之友社主催軍人援護會後援第二回〃健氣な靖國の遺兒〃表彰は來る四月の靖國神社春季臨時大祭に行はれるが縣軍人援護會支部では二月二十日までこれに該當する遺兒の推薦方を平市役所に通牒して來た、市では早速行政區長と協力該當遺兒の調査に當つてゐる

推薦資格は靖國神社に合祀された皇軍將兵及び軍屬の遺兒で十四、五才以下褒賞するに足る篤行のある模範兒で住所、年齡、在學又は卒業學校名、家庭の事情等を具体的に記した推薦狀を行政區長の手を通じ市役所に申出れば良い

模範教化村に賭博擧る
名譽失墜に村民激昂

石城郡渡邊村大字中釜戸雜貨商高木定男（三六）外十六名は舊正月の休み中花札使用し賭博開張中一網に檢擧された

同村は郡内の模範村で縣から教化村の指定を受け二十八日開村式を擧ぐることに成つてゐる際村内から斯うした時局をわきまへぬ不所存者が出ては世間に申譯ないと、村の名譽のため遺憾とされ近く全村民へ役場から警告を發することになつた

青年の進路を示し推進班結成
東北指導會議に山崎氏選任

翼贊運動と地方青年の指導に力を注ぐことに成つた本部組織局では十七日から三日間仙台市に『地方青年指導者協議會』を開催することになり本縣の指導者代表に平商業報國隊長山崎忠兵衛氏が選任された、會議の要項は次の如く翼贊會本部からは組織部長、副部長、青年部員等多數出席三日間に亙つて翼贊運動の本義を明示し、青年の活動を促す爲全國に『青年推進隊』を結成すべくこれが組織方針を顯明徹底せしむる筈で、全會議に參加した山崎氏等が主体と成つて本縣青年推進班の組織を急ぐことに成る

◇會議要項

1、翼贊會組織局の青年指導方針に關する件

2、翼贊運動青年推進班組織結成に關する件

補充兵訓練
廿一日の査閲に備ふ

小名濱町の補充兵訓練は十一日から十日間第一小學校々庭に開き二十一日の査閲に備へる、尚ほ同査閲は玉川、鹿島兩村も參加同第一小學校に開く豫定

素人記者の漫歩
（11）
蓮沼龍輔氏の印象
◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇
社會の表裏を知る實際家

稻水生

「僕が磐城新聞を始めた頃の話だ當時の入山炭礦の庶務課長をやつてゐた太田文雄氏の所へ廣告取りに行つたものだ。この人は今大倉鑛業の支那部長兼入山の理事をやつてゐるが、入山に來る前に大阪で大正日々新聞に入つて仕事をした人だけあつて、（大正日々新聞は大正の始め後藤新平氏が百五十萬の資本を投じて大阪朝日から鳥居素川その他の幹部級をひきぬいて作つたもので後大本教に買收されたが一ヶ年ばかりでつぶれた）『君！新聞を經營するのに廣告料なんかとつてゐては駄目だよ。新聞は官廳方面との接觸面が多い。だからそれを善用して地方産業の開發といふ事に重點をおいてやつてゆくべきで、この二者の連絡機關となりその報酬を得るといふ事を目的とすべきである』とかういつたものだ。それで僕はその方針に依つて十八年間新聞を經營し炭鑛から廣告料なんか貰はなかつた。忘れもしない大正十四年から昭和二年の思想動搖時代に常磐炭田に一大勞働爭議が勃發したことがある、愈々爭議が重大化したのは昭和二年の一月で、爭議は六十日にわたり縣警察部長を團長として縣下警官の八割が常磐地方に集合し、その六十日で縣の一ヶ年分の警察費をつかひ果して臨事參事會を開いて追加豫算を計上するといふ次第であつた僕はその時に入山、磐城、古河の三大炭鑛のために微力をつくし上杉博士（上杉愼吉）の建國會を中心として左翼分子と戰つて勝利を博しその結果炭鑛の先輩同志の援助を得てかやうに縣會にも出るやうになつたのである」

語る人は蓮沼龍輔氏、栃木縣の產で本年五十歳、丸い瀬戸火鉢を中にして聽いてゐると語々熱と力を帶びて逞ましい迫力を持つてゐる。矢張裸一貫からたゝき上げた人だけあつていふ事が實際的であり、新聞經營談などになると素人のこちらが、成程さういふものかなあと今更のやうに氣のつくことが多い、但しこの訪問印象記は私が自分の社會知識勉強のために始めたもので營業政策からではない。ひきしまつた顏には少しの隙もない。　それこそ社會の裏の裏人情の表裏何もかも知つてゐるといふ顏だ。遠慮なしにずばり、ずばりと思ふ事をいつてのける態度は男らしくて氣持が好い、說明する迄もなく氏は市會副議長、縣會議員として洋々たる前途を有してゐる。最近は大政翼贊會理事として指名を受けてゐる。翼贊會理事としての抱負の一端を紹介して本文を結ぶことにする。

僕は自分が偉い者とかいふやうな態度、自分が高い所に立つて大衆を率ゐるといふ態度を捨てゝ、辭を卑うして一般人に協力を求める態度に出たいと思ふ。

白衣の天使倉兼さん
戰地から母校へ送金

縣立磐城高女第十九回卒業生の倉兼フキ子さんは目下北支の第一線で赤十字看護婦として勤務してるるが、母校磐女の増學級を知つて戰地から二十圓送附して來たので同校擧げて感激してゐる

同フキ子さんは滿洲事變以來白衣の天使として應召すること三回目で今事變で一度歸還したとき『是非嫁にほしい』と縁談は降るやうにあつたが『何時應召されるか解らず、家庭を持つては戰地で働きが鈍る』と男も及ばぬ決心を固め、勇躍第三回目の應召を受けた女丈夫である

留守宅の寫眞で
戰地を慰問
國婦分會に寫友會が協力

戰地で寫眞對面

平市の國婦分會では舊正月以來全員出動出征軍人の遺家族を訪問、金一封を漏れなく贈つて留守宅を守る勞苦を慰めてゐるが、今度平寫友會の應援を求め遺家族全家庭の寫眞を二葉づゝ撮影し、これを第一線へ送つて元氣な留守宅の家族と寫眞對面させ、第一線の勞苦を慰さめようと計畫を急ぎつゝあり、寫友會でも『銃後の御奉公はこの時』と大變な張り込みである

國婦側では寫眞材料其の他實費を提供、寫友會では勿論報酬なしで撮影から原像燒付け一切を引き受けて奉仕する譯で一千枚を超える多數に上るので寫すだけで今月一ぱい要し、整理の上三月中に發送する豫定である

尚國婦側では出征兵の家庭へ左の如き慰問寫眞の案内狀を送つた

【前略】此度平市寫友會の方々の御協力を願つて出征御家族の御元氣なお姿をカメラに納めさせて戴き戰線に御活躍中の御宅の御子弟樣へ御送り申上げて御慰安の一端にいたす事になりました、ついては近日中に寫友會の方と國防婦人會の役員とがお伺ひいたしますから其節は御迷惑でもありませうが御家族の皆樣お揃ひでにこやかにお寫し下さいますやうお願ひ申上げます

勤儉貯蓄心鼓吹に
尊徳翁銅像寄附
大谷市議平第一校へ建立

平市會議員大谷武雄氏は小學兒童に勤儉貯蓄の思想を鼓吹する目的の下に平第一小學校へ二宮尊徳翁の銅像を建設して寄附することになり今七日基礎工事に着手した

尊徳翁の銅像は土台七尺四方、高さ九尺五寸で正面玄關の左側柵内へ建立、今月中頃除幕式を行ふが、同氏は建立を機會に全校兒童へ尊徳翁の遺訓を解說したパンフレットを配布する豫定であると

頰刺し六千貫
軍部へ納入
小名、四倉協力製造

小名濱海産物食料加工組合では今漁期中に鰯頰刺六千貫を軍部方面へ納入すべく契約、この程二千貫を納入して殘契約分の製造に全力を傾注してゐるが江名、四ツ倉業者も協力、生産過剩の心配も何處へかふつ飛んで一路増産に邁進天候も暖か過ぎる傾向はあるが晴天續きに惠れてゐるため漁期中の納入は殆んど決定的と成つてゐる

小名濱港の鰯不足
相場はピンとはね上る

五日小名濱港鰯揚繰漁況は揚繰船十統出漁千五百貫を水揚げ四圓五十錢から三圓三十錢の建値であつた、運德丸、寶來丸、壽和丸等が大漁船である

酒の出廻りに不審
稅務署の眼光る
一月分は前年比卅石増加

平稅務署管內一月中の倉出し清酒石數は八百八十石で前年同期の八百五十石に比較すると三十石の増加である、この倉出數は平稅務署が正月並舊正の關係から酒不足を緩和しようと苦心各釀造元を督勵した結果三十石の増加と成つたもので一方需用者方面は一向に増加の影響がなく處に依つては却つて不足の狀態を告げた處もある始末で一般に前年同樣の出廻であつた

同署ではこの統計に依り釀造元、消費者間の中間商に洩れ穴がある[illegible]後は中間商に[illegible]清酒とも照合[illegible]數を決定する[illegible]樣である

正月酒の益金
公共へ寄附
四倉酒商の公益優先

石城酒類商四倉支部では舊正月酒一戸七合を配給し合計十一石一斗六升賣百五十圓に達したので協議の結果純益金を[illegible]處分した

△百圓、四倉[illegible]十圓、四倉町[illegible]會△殘額百圓、同組合基金へ

結婚費節約し
銃後會寄附

平市の[illegible]

平市擾槍小路[illegible]氏は女長昌子さ[illegible]を節約七日銃後[illegible]授産場増築費へ[illegible]を寄附した

寒行の淨財を
國防献金
四倉の關谷行者篤行

四倉町字原田[illegible]準任氏は寒行三十日間[illegible]淨財金二十圓[illegible]婦人四倉分會に寄附した

翼贊會市理事
今七日正式指名到着

翼贊會平支部理事[illegible]り指名の正式通知が市に到達、市から[illegible]知することに成つた

◇市理事、山崎忠兵衛、市井茂、猪狩庄一、[illegible]關内正一、大[illegible]八郎、萩原讓[illegible]伊藤秀吉

勞賃を献金

四倉町字仲田阿[illegible]くよさん（五八）は[illegible]品製造で働いた[illegible]金拾圓を國防婦[illegible]寄附した

米穀管理違反
無檢査米賣つて檢擧

石城郡[illegible]田典男（三〇）は[illegible]米を六十八圓で賣却し米穀管理違反で平署員に檢擧された

獻金

夏井村青年團勝田分團女子部鈴木キミ子さん外二十[illegible]名の團員達は正月の休みを利用[illegible]の加工に從事[illegible]金十圓を[illegible]小野町長を通じ獻金した

平市慶弔錄

[illegible]

天氣豫報

今晩　南西の風後北西の風

明日　北西の風晴天海上は稍荒

滿潮　[illegible]

二月八日　土曜　舊正月十三日　丁亥　先負　女宿

▲一白　[illegible]
▲二黒　[illegible]
▲三碧　[illegible]
▲四綠　[illegible]
▲五黄　[illegible]
▲六白　[illegible]
▲七赤　[illegible]
▲八白　人のため氣の進まぬ事ありとも盡力すべし
▲九紫　長上に從ひ部下に慎みを懸けて職務に勵め

平陽女學校の卒業生一同に告ぐ

來る二月九日左記に依り本校同窓會並に音樂會開催に付萬障御繰合せの上多數御出席をお待ち申上げます

◇二月九日午前八時半　本校講堂ニ於テ同窓會

◇全日午後一時　公會堂ニ於テ音樂會

平陽女學校

周旋開業

永らく料理店にて御贔屓に預りました若美家が此程周旋業に轉業しましたから倍舊御引立の程偏に御願ひ致します

藝妓
酌婦
周旋　四倉町驛前　若美家　松本キエ

磐城のおみやげ品
みやま羊羹
梨羊羹
小川鄕　驛前　平屋賣店

外科　整形　胃腸　性病
醫學博士　松村亨
醫學得業士　松村鐵郎
松村醫院
平市南町　電一〇七

三笠燒
色羊羹
味自慢　風味高雅
平驛前中央通　米屋最中店

モナカ屋がお土産として始めました、どうぞ最中と同樣御贔屓を願ひます

東亞共榮圈に一新紀元を劃する新春第一弾たる一大獅子吼の殉情大浪曲!!

ビクターレコード專屬
玉川勝太郎一行來演

二月十二日（舊正十七日）（一日限り）
會場　聚樂館
【入場料金八十錢稅共】
風戸興行部責任